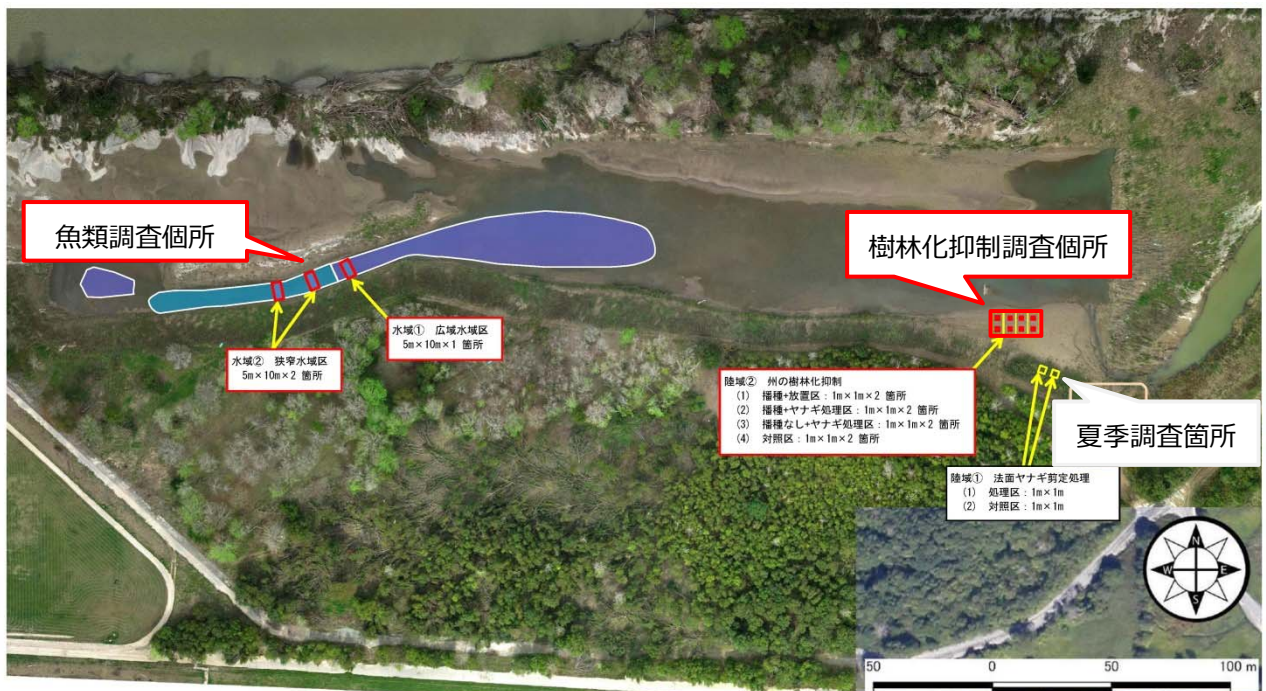


十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (16)

十勝川相生中島上流湿地 (秋期) 魚類等調査の支援活動

平成 24 年に十勝川相生中島地区 右岸上流部において、河道掘削後の樹林化対策と新たな湿地環境づくりを目的として掘削された水域を、翌年から帯広農業高等学校の水質環境研究グループが現地調査・湿地環境づくりを行い、平成 26 年秋から環境調査 (魚類全量推定) を行っています。この活動は、農高と帯広河川事務所が進める工事後のモニタリング調査の支援活動で、今年 2 回目 (秋季) になります。

- 日 時 : 平成 29 年 10 月 21 日 (土) AM 8:00~PM12:30
- 参加者 : 帯広農業高等学校 水質環境研究グループ 24 名 (1~3 年生)
十勝川中流部市民協働会議事務局 3 名
河川管理者 帯広河川事務所 5 名
アークコーポレーション株式会社 9 名
- 場 所 : 十勝川右岸 相生中島地区上流部
- 活動支援内容 1 : 樹林化抑制調査 (対象 : ヤナギ)
- 活動支援内容 2 : 魚類調査



ヤナギ及び魚類調査箇所 (赤枠内)



帯広河川事務所 田村副所長による開会挨拶



作業前説明の様子

活動支援内容 1：樹林化抑制調査の補助

1) 樹林化の抑制調査は、法面部と水平部の2箇所で行っています。夏季に調査した法面に生育しているヤナギの群落 1m×1m の方形区の処理区と対象区については、1年後2年後3年後に処理区（伐採）と対象区（未伐採）の調査結果を待つこととなります。



夏季に調査したヤナギの種類を説明する室瀬氏



ヤナギ幼木を説明する様子

2) 水平部の土砂で埋め尽くされた湿地箇所においては、現在ヤナギの実生が大量に発生してきています。夏季調査では方形区を設定し、ヤナギ実生の生育として樹高・直径等を記録しましたが、今回は3年後の**樹林抑制効果を検証**するために、以下のように4つ（10m×5mの中に1m×1mを2箇所）の調査区を設定しました。

1. 種まき+放置区
2. 種まき+刈り取り区
3. 種まきなし+刈り取り区
4. 対象区（未処理）

この調査区設定に先立、種まきに使うタネ（穂）を、湿地下流のヨシが繁茂しているところで採取しました。



湿地下流でヨシ類のタネ（穂）を採取している様子



採取したヨシ類



作業方法説明の様子



ヤナギの刈り取り作業の様子



刈り取り区にヨシ類のタネ（穂）をまく様子



放置区にヨシ類のタネ（穂）をまく様子



1. 種まき+放置区



2. 種まき+刈り取り区



3. 種まきなし+刈り取り区



4. 対象区（未処理）

活動支援内容2：魚類調査の補助

今回（秋季）の魚類調査は、夏季の時と比べて水域面積が減少し限られた場所での調査になりましたが、今まで通りの調査と同じく、魚類の生息状況（どんな環境に？どんな魚が？どのくらい？）を把握することを目的に行います。

また、その結果をもとに、それぞれの環境の面積と実際に調査した面積から、水域全体にどれくらいの魚がいるかを推定します。

活動の支援としては、魚類の同定や仕切り網の設置サポートを行いました。



調査内容を説明する室瀬氏



夕毛網で魚を捕獲する様子（1）



夕毛網で魚を捕獲する様子（2）



魚類調査は、池全体における魚体数を推定するため、魚が捕れなくなるまで夕毛網で捕獲作業を行いました。



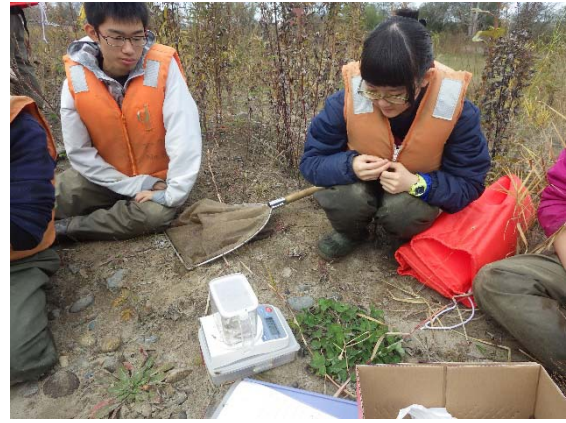
捕獲した魚を種類別に分けている様子



魚の個体数記録する様子



魚体の計測風景



捕獲した魚の重量を計測する風景

捕獲した魚の種類は、フクドジョウ、イトヨ、トミヨ、ジュズカケハゼ、カワヤツメ、ウガイ属等が確認されました。



捕獲した全魚類



捕獲したカワヤツメ属



捕獲したウガイ属



捕獲したイトヨ



捕獲したカワヤツメ属



捕獲した魚を放流する様子

無事調査が終了し帯広河川事務所 副所長から挨拶がありました。



調査終了時の様子

調査結果



・広い水域の調査区：5 魚種，44 個体を確認

・せまい水域の調査区：6 魚種，606 個体を確認

区分	種名	個体数	重量 (g)
魚類	ヤツメウナギ類	1	4.1
	ウグイ類	23	10.3
	フクドジョウ	1	2.0
	エゾホトケドジョウ	0	0.0
	イトヨ	6	5.7
	トミヨ属淡水型	0	0.0
	ジュズカケハゼ	13	24.5

区分	種名	合計	
		個体数	重量 (g)
魚類	ヤツメウナギ類	93	167.1
	ウグイ類	361	223.4
	フクドジョウ	14	26.0
	エゾホトケドジョウ	0	0.0
	イトヨ	31	34.7
	トミヨ属淡水型	1	1.6
ジュズカケハゼ	106	188.8	

・魚類の全量推定：池全体の生息数

魚類調査と計算の結果，約 10,453 個体となった。ウグイ類が約 5,872 個体（56%）と最も多かった。

